J

FC-100

取扱説明書

保証書付

本書はお読みになった後も大切に保管してください。

RJA510048-001V01

CASIO

はじめに

このたびは、《カシオFC-100》をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。本機は、複利計算、ローンの返済内訳、金利変換、投資評価などの金融計算の他、標準偏差計算、回帰分析などの多彩な機能を備えた10桁計算機です。

この説明書は、計算機の基本的なご使用方法および扱い方について説明してあります。説明書をよくお読みいただき、各機能を十分にご理解のうえ、末ながくご愛用ください。

また金融関係のキー内容がひと目でわかるように、上から4段目までのキーに対してのキーボードシートを付属していますので、ご活用ください。

おことわりとご注意

本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。

日本では全融機関によって計算式や端数処理方法が異なる場合がありますので、本機に内蔵されてある計算式と比較して行なってみたり、広範囲にテストした上で間違いないことを確かめてから、この計算機を利用してください。

目次

ご使用上の注意 …… 4

保証・アフターサービス …… 4

電源について …… 5

電池交換の仕方 …… 5

オートパワーオフ …… 6

各部の名称とその説明 …… 7

計算をはじめる前に …… 16

モードについて …… 16

訂正について …… 17

桁オーバーと計算エラーについて …… 18

表示の見方 …… 18

内部演算と丸め処理 …… 19

基本計算の仕方 …… 20

加減乗除計算 …… 20

定数計算 …… 20

小数点以下指定計算 …… 21

パーセント計算 …… 22

メモリー計算 …… 23

関数計算 …… 25

統計計算の仕方 …… 26

標準偏差計算 …… 26

回帰計算 …… 28

直線回帰計算 …… 29

対数回帰計算 …… 30

指数回帰計算 …… 31

べき乗回帰計算 …… 32

日数・日付計算の仕方……33

金融計算の仕方……35

金融計算をはじめる前に……35
金融メモリー……36
入・出金の流れと数値入力……36
キャッシュ・フロー・ダイアグラム……36
複利計算……37
預金……42
積立……45
ローン(元利均等返済方式)……49
ローンの返済内訳……52
表面金利と実質金利の相互変換……54
投資評価……55
正味現在価値による投資評価……55
内部利益率による投資評価……60
金融計算のエラー発生条件……65
金融計算の応用例題……66

原価・売価・利益率計算の仕方……73

原価計算……74
売価計算……74
利益率計算……75

関数桁容量……76

規格……77

保証・アフターサービスについて……78

ご使用上の注意

●計算機は精密な電子部品で構成されていますので、高温や低温の所、湿気やホコリの多い所での使用や保管および、急激な温度変化や強いショックをさけてください。特に温度が低いときは表示の応答速度が遅くなったり、点灯しなくなることがありますが、通常の温度になると正常にもどります。

●計算機の演算中は表示が消えており、この間のキー操作は無効ですから、常に表示を確かめながら確実にキーを押してください。

●数ヵ月以上ご使用にならないとき、および、消耗ずみの電池は、液もれによる損傷が考えられますので、必ず電池をはずしておいてください。

●計算機は絶対に分解しないでください。また、使用ずみの電池や液晶パネル等は火中に投入しないでください。

●万一、本機使用または、本書の例題の運用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

●故障、修理、電池交換などに起因するデータの変化・消失による損害および逸失利益などにつきましては、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

●お手入れは、シンナー・ベンジンなど揮発性の液体をさけ、乾いた柔らかい布か、中性洗剤液に浸し固くしぼった布でおふきください。

◆保証・アフターサービス

●保証書は本書に刷り込まれております。保証書の規定にしたがって保証いたしますので内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。なお、保証期間が過ぎているときはお買上げの販売店またはカシオサービスセンターへご依頼ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

●修理を依頼される場合は、再度点検していただき、できるだけ詳しくその状態をお伝えください。

●アフターサービスなどについて、おわかりにならないときはお買上げの販売店または本書記載のカシオサービスセンターにお問い合わせください。

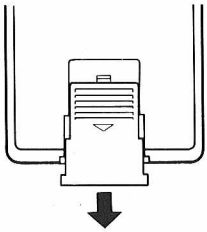
電源について

本機は、リチウム電池《CR-2025タイプ》1個を電源とします。
リチウム電池は《CR-2025》と記されているものならば、どこのメーカーの電池でもよく、カメラ店・電器店等でも販売しております。
電池が消耗しますと、表示窓の数字がうすくなり、大変見にくくなります。このときは、下図に示すように、新しい電池と交換してください。

※電池は2年以上使用した場合、液もれをおこす危険がありますので、使わない場合でも2年に1度は必ず電池交換をしてください。
※本機に組み込まれている電池はモニター用の電池ですので、所定の時間に満たないうちに消耗することがあります。
※電池交換を行ないますと、記憶されているメモリー内容は消えます。

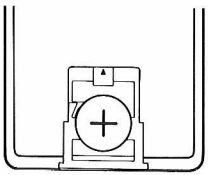
◆電池交換の仕方

①電源スイッチを切ってから、裏面の電池ブタをはずします。



②古い電池を取り出します。
（電池ボックスを下に向けて、軽くたたけば、簡単にはずせます）

③新しい電池を乾いた布でよくふいて、⊕を上にして入れます。



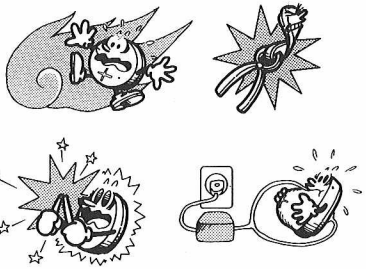
④電池ブタで電池を押さえながらスライドさせてとじます。

電池使用上のご注意

電池は使い方を誤ると電池の液もれで製品が腐食したり、電池が破裂することがあります。次のことを必ずお守りください。

●⊕⊖の向きを正しく入れてください。(本体表示通りに)

〈危険〉
充電や分解、ショートする恐れがあることはしないでください。また、加熱したり火の中へ投入したりしないでください。



電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。万一、飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。

〔ご注意〕電池交換後、必ず次の操作を行なってください。

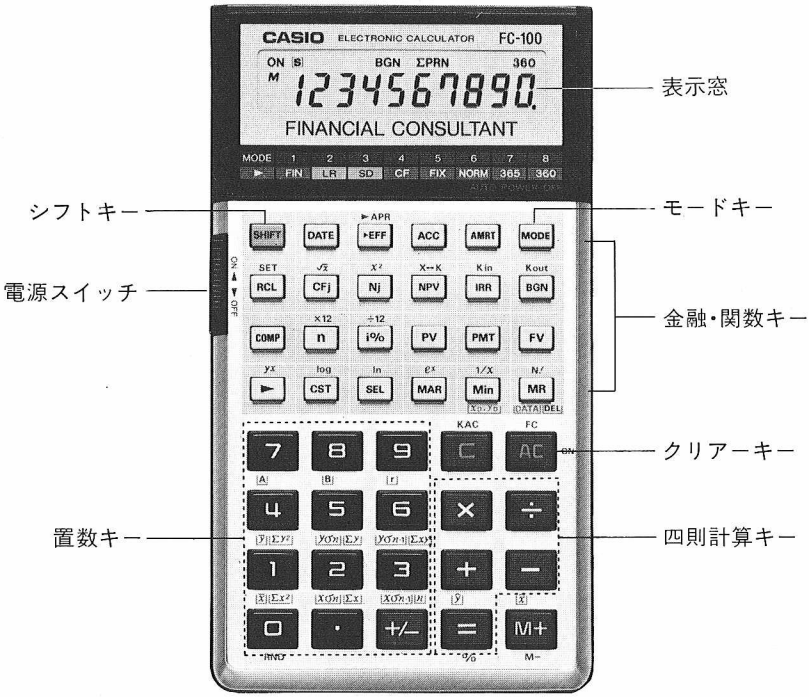
FINモード指定　金融メモリークリアー　定数メモリークリアー　独立メモリークリアー　NORM指定　365日モード指定

★電池交換を行ないますと、記憶してあるデータは全てクリアーされてしまいます。
大切なデータは必ずノートなどに控えておくようにしてください。

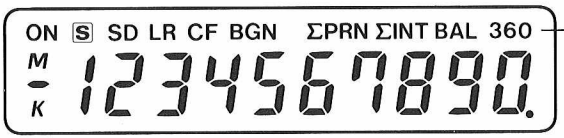
◆オートパワーオフ(自動電源OFF)機能について

スイッチの切り忘れによるムダな電力消費を防ぐ「自動節電機能」で、操作完了後約6分で自動的に電源オフになります。この場合は電源スイッチを入れ直すか、ACキーを押せば、再び電源オンになります。(電源オフになってもメモリー内の数値や各モード指定は覚えています。)

各部の名称とその説明

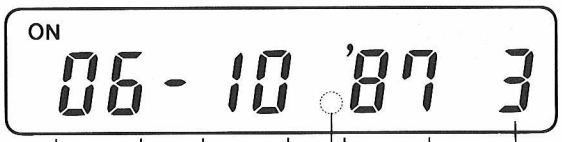


〈表示窓〉



計算数値や答を表示します。

また、日数・日付計算の場合は次のように表示します。



(1987年6月10日 水曜日を表示)

2000年代はこの位置に〝●〟が点灯します。

曜日は

0＝日曜日　1＝月曜日　2＝火曜日　3＝水曜日　4＝木曜日
5＝金曜日　6＝土曜日

電源スイッチを入れると表示窓に〝ON〟シンボルが点灯します。また、計算内容に合わせて〝SD〟〝LR〟〝CF〟〝BGN〟〝PRN〟〝Σ PRN〟〝INT〟〝Σ INT〟〝BAL〟〝360〟のシンボルが、シフトキーを押すと〝[S]〟が、独立メモリーに数値が入っているときは〝M〟が、定数計算中は〝K〟が表示されます。
なお、エラーチェック(18ページ)のときは、最下桁に〝E〟を表示して計算を中止します。

電源スイッチ

ツマミを上にスライドすると電源オンとなります。なお、電源オフにしても、独立メモリー、定数メモリー、金融メモリーおよび各モード指定(16ページ)は憶えています。

[SHIFT] シフトキー

キーパネル面にオレンジ色で記されている関数命令および機能を行ないたいとき、それぞれのキーの前に押します。
[SHIFT]キーを押すと表示窓に〝[S]〟が点灯し、[SHIFT]キーが押されたことを示します。続けて[SHIFT]キーを押すと〝[S]〟が消え、[SHIFT]を押す前の状態になります。

[DATE] 日付入力キー

日数・日付計算を行なうとき、日付を入力するときに押します。
月[DATE]日[DATE]年[DATE]のようにキーを押して日付を入力します。(33ページ)

[▶APR / ▶EFF] 実質金利／表面金利変換キー

EFF＝Annual Effective Rate／APR＝Annual Percentage Rate

- 表面金利を実質金利に変換するときに押します。
- [SHIFT]に続いて押すと、実質金利を表面金利に変換することができます。
  (以下、本書では[SHIFT][▶APR]と記します。)

※計算結果は通常の四則計算同様、[=]キーを押して求めます。(54ページ)

ACC ローン返済の元金合計、利息合計キー

ACC＝Accumulated PRN & INT

ローン返済(MODE 1：FINモード)において、ある時点までに支払う元金分の合計と利息分の合計を求めるときに押します。キーを押すごとに、元金合計➡利息合計➡元金合計…と切替わり、元金合計のときには〝Σ PRN〟が、利息合計のときには〝Σ INT〟が表示窓に点灯します。(52ページ)

AMRT ローン返済の元金部分、利息部分、元金残高キー

AMRT＝Amortization

ローン返済(MODE 1：FINモード)において、ある時点の支払い額中の元金部分、利息部分とそれ以降の元金残高を求めるとき押します。キーを押すごとに、元金部分➡利息部分➡元金残高➡元金部分…と切替り、元金部分のときには〝PRN〟が、利息部分のときには〝INT〟が、元金残高のときには〝BAL〟が表示窓に点灯します。〈PRN＝Principal、INT＝Interest、BAL＝Balance〉(52ページ)

MODE モードキー

計算内容に合わせてモードを切替えたいとき、1～8の数字キーと組み合わせて押します。(詳しくは16ページをご覧ください。)

SET RCL データ確認キー／セットキー

RCL＝Recall

- n、i%、PV、PMT、FV、CST、SEL、MAR、CFj(j＝0～14)、Nj(j＝0～14)のそれぞれのデータの内容の確認をしたいときに、それぞれのキーの前に押します。
- CFjとNjにあらかじめ入力されているデータの訂正を行なうとき、SHIFTに続けて押します。(57、63ページ) また、予測値を入力してIRRを求めるときに予測値を置数した後SHIFT SET RCL IRRと操作します。(62ページ。以下本書ではSHIFT SETと記します。)

√x CFj キャッシュ・フロー入力キー／ルートキー

CF＝Cash Flow

- 投資評価(MODE 4：CFモード)において、キャッシュ・フロー(入出金)を入力するときに押します。(56、60ページ)

●表示数値の平方根を求めるとき、[SHIFT]に続けて押します。(以下、本書では[SHIFT][√x]と記します。)

[Nj] 回数キー／2乗キー

●投資評価([MODE][4]：CFモード)において、同額のキャッシュ・フローが続くとき、回数を入力した後に押します。(56、60ページ)

●表示数値の2乗を求めるとき、[SHIFT]に続けて押します。(以下、本書では[SHIFT][x²]と記します。)

[NPV] 正味現在価値キー／レジスタ変換キー　NPV=Net Present Value

●投資評価([MODE][4]：CFモード)において、正味現在価値を求めるとき押します。(56ページ)

●表示数値と定数メモリーの内容を入れかえるとき、数字キーと組み合わせて、[SHIFT]に続けて押します。(以下、本書では[SHIFT][X↔K]と記します。)

[IRR] 内部利益率キー／定数メモリー入力キー

IRR=Internal Rate of Return

●投資評価([MODE][4]：CFモード)において、内部利益率を求めるとき押します。(61ページ)

●表示数値を定数メモリーに覚えさせるとき、[1]～[6]の数字キーと組み合わせて、[SHIFT]に続けて押します。(以下、本書では[SHIFT][Kin]と記します。)

[BGN] 期首、期末払い切替えキー／定数メモリー出力キー

BGN=Begin

●複利計算([MODE][1]：FINモード)において、期首払い方式か期末払い方式かを指定するとき押します。キーを押すごとに、期首➡期末➡期首…と切替り、期首払いを指定すると〝BGN〟シンボルが点灯します。(38ページ)

●定数メモリーに入っている数値を表示させるとき、[1]～[6]の数字キーと組み合わせて、[SHIFT]に続けて押します。(以下、本書では[SHIFT][Kout]と記します。)

[COMP] 計算実行キー　COMP＝Compute

複利計算([n]、[i%]、[PMT]、[PV]、[FV])、原価・売価・利益率計算([CST]、[SEL]、[MAR])の答えを求めるとき、このキーに続けて各々のキーを押します。

[x12 n] 複利期間キー／期間12倍キー　n＝Number of Compound Periods

●複利計算([MODE][1]：FINモード)において、複利期間数を入力するとき押します。また、[COMP]に続けて押すと、期間数を求めることができます。

●[SHIFT]に続けて押すと、表示数値の12倍の値が入力できます。

[÷12 i%] 利率キー／利率 1/12 倍キー　*i* %＝Periodic Interest Rate

●複利計算([MODE][1]：FINモード)や投資評価([MODE][4]：CFモード)のNPVを求める計算において、利率(パーセント単位)を入力するとき押します。また、複利計算では[COMP]に続けて押すと、利率を求めることができます。

●[SHIFT]に続けて押すと、表示数値の1/12倍の値が入力できます。

[PV] 現在価値(元金)キー　PV＝Present Value

複利計算([MODE][1]：FINモード)において、現在価値(元金)を入力するとき押します。また、[COMP]に続けて押すと、現在価値(元金)を求めることができます。

[PMT] 支払い(受取り)額キー　PMT＝Payment

複利計算([MODE][1]：FINモード)において、支払い(受取り)額を入力するとき押します。また、[COMP]に続けて押すと、支払い(受取り)額を求めることができます。

FV 将来価値(元利合計)キー　　FV=Future Value

複利計算(MODE 1：FINモード)において、将来価値(元利合計)を入力するとき押します。また、COMP に続けて押すと、将来価値(元利合計)を求めることができます。

► 桁下げキー／べき乗キー

●置数のとき、入れまちがえた最小桁の数値を消したいとき押します。1回押すごとに1桁ずつ桁下げが行なわれます。(結果に対しては、働きません)

●y (任意の数)の x (任意の数)乗を求めるときに、y と x の間で SHIFT に続いて押します。(以下、本書では SHIFT y^x と記します。)

CST 原価キー／ログキー　　CST=Cost

●原価・売価・利益率計算において、原価(コスト)を入力するとき押します。また、COMP に続けて押すと、原価(コスト)を求めることができます。(74ページ)

●表示数値の常用対数(10を底とする対数)を求めるとき、SHIFT に続けて押します。(以下、本書では SHIFT log と記します。)

SEL 売価キー／エルエヌキー　　SEL=Sell

●原価・売価・利益率計算において、売価を入力するとき押します。また、COMP に続けて押すと、売価を求めることができます。(74ページ)

●表示数値の自然対数(eを底とする対数)を求めるとき、SHIFT に続けて押します。(以下、本書では SHIFT ln と記します。)

MAR 利益率キー／eのx乗キー　　MAR=Margin

●原価・売価・利益率計算において、利益率(マージン)を入力するとき押します。また、COMP に続けて押すと、利益率(マージン)を求めることができます。(75ページ)

●表示数値のeのx乗を求めるとき、[SHIFT]に続けて押します。(以下、本書では[SHIFT] [e^x]と記します。)

[1/x] [Min] [xo,yo] メモリーインキー／逆数キー

●表示数値を独立メモリーに覚えさせるとき、押します。前に入っていた数値が消え、あらたな数値が入ります。

●表示数値の逆数を求めるとき、[SHIFT]に続けて押します。(以下、本書では[SHIFT] [1/x]と記します。)

●〝LR〞([MODE] [2])を表示しているときは、回帰計算の「xデータ」の入力キーになります。(以下、本書では[xo,yo]と記します。)

[N!] [MR] [DATA] [DEL] メモリーリコールキー／階乗キー

●独立メモリーに入っている数値を表示させるとき押します。メモリー内容は変化しません。

●表示数値の階乗を求めるとき、[SHIFT]に続けて押します。(以下、本書では[SHIFT] [N!]と記します。)

●〝LR〞([MODE] [2])または〝SD〞([MODE] [3])を表示しているときは、データ入力／削除キーになります。(以下、本書では[DATA]、[SHIFT] [DEL]と記します。)

[DATA]……〝SD〞のときには《データ [DATA]》と、〝LR〞のときには《x データ [xo,yo] y データ [DATA]》と押します。

[SHIFT] [DEL]……入れまちがえたデータを削除するとき、上例の[DATA]キーの代わりに[SHIFT] [DEL]と押します。

[1]～[9] [0] [・] 置数キー

●置数(計算機に数値を入れること)のとき、数の上桁より順に押します。[・]は小数点の位置で押します。置数は最大10桁でそれ以上はいくら数字キーを押しても計算機に入りません。

● SHIFT に続いて押しますと、以下の機能になります。

• SHIFT 0 RND …内部数値丸め

内部数値(演算用Yレジスタの数値)の有効桁数11桁目を四捨五入して丸めます。また、Fixモードの場合は、内部数値を切り捨てし、指定により表示されている数値(または有効桁数分)と同じ数値にします。

※以下の操作は、LRモード(MODE 2)またはSDモード(MODE 3)のときにのみ有効となります。

- SHIFT 1 $\bar{x}$ … $\bar{x}$ (x の平均)算出
- SHIFT 2 $x\sigma_n$ … $x\sigma_n$ (x の標準偏差)算出
- SHIFT 3 $x\sigma_{n-1}$ … $x\sigma_{n-1}$ (x の標準偏差)算出
- SHIFT 4 $\bar{y}$ … $\bar{y}$ (y の平均)算出
- SHIFT 5 $y\sigma_n$ … $y\sigma_n$ (y の標準偏差)算出
- SHIFT 6 $y\sigma_{n-1}$ … $y\sigma_{n-1}$ (y の標準偏差)算出
- SHIFT 7 A … A (回帰式の定数項)算出
- SHIFT 8 B … B (回帰係数)算出
- SHIFT 9 r … r (相関係数)算出

標準偏差計算、回帰計算のとき使用し、それぞれの答が求められます。
くわしくは「統計計算の仕方」を参照。

● SHIFT Kout に続けて押しますと、以下の機能になります。

- SHIFT Kout 1 Σx^2 … Σx^2 (x の2乗和)算出
- SHIFT Kout 2 Σx … Σx (x の総和)算出
- SHIFT Kout 3 n … n (データ数)算出
- SHIFT Kout 4 Σy^2 … Σy^2 (y の2乗和)算出
- SHIFT Kout 5 Σy … Σy (y の総和)算出
- SHIFT Kout 6 Σxy … Σxy (データの積和)算出

+/− サインチェンジキー

表示数値の符号を正➡負または負➡正に変えたいとき押します。

KAC C クリアーキー(置数訂正キー)

●押しまちがえた数値の訂正を行なうとき、置数のすぐ後で押します。今までの計算を残し、表示数値のみを消すことができます。

●定数メモリーと統計メモリーをすべてクリアーにするとき、SHIFT に続いて押します。

FC AC ON オールクリアーキー

●独立メモリー、定数メモリー、金融計算メモリー、原価・売価・利益率計算メモリー、統計メモリーを残し、他のすべてをクリアーにするとき押します。また、オートパワーオフ(6ページ)が働いて、表示が消えているときに、電源オンにするために押します。

●金融計算メモリー、原価・売価・利益率計算メモリーをすべてクリアーにするとき、SHIFT に続けて押します。

+ − × ÷ = 四則計算キー／イコールキー

●加減乗除の四則計算をするとき、計算式通りにそれぞれの位置で押します。= を押すと最終の答が求められます。なお、四則計算キーを続けて2回押すと〝K〟を表示し、定数計算(20ページ)を行なう命令になります。

●+、− キーは、〝LR〟表示中 (MODE 2) は回帰計算の推定値算出キーとなり、SHIFT −(x̂) で x̂ が、SHIFT +(ŷ) で ŷ が求められます。

●= は、SHIFT に続けて押すとパーセント計算を行なうことができます。

M+ M− メモリープラスキー／メモリーマイナスキー

●表示数値を独立メモリーに加算(合計)したいとき押します。なお、四則命令キーが押されているとき(定数計算中を含む)は、まず答が求められ、その答がメモリーに入ります。(= の働きを兼ねそなえています。)

●表示数値を独立メモリーに減算(マイナス合計)したいとき、SHIFT に続いて押します。

計算をはじめる前に

◆モードについて

本機で計算を行なう場合には、最初にどのような内容の計算をするのかを指定する必要があります。その指定は、MODE キーと数字キーを組み合わせて行ないます。

■演算モード

MODE 1 ……関数計算を含む一般の計算や金融計算（投資評価を除く）を行なうときに指定します。(表示窓にシンボルは点灯しません。)
(FINモード)

MODE 2 ……回帰計算(2変数統計)を行なうときに指定します。(表示窓に〝LR〟シンボルが点灯します。)
(LRモード)

MODE 3 …… 標準偏差計算を行なうときに指定します。(表示窓に〝SD〟シンボルが点灯します。)
(SDモード)

MODE 4 ……投資評価を行なうときに指定します。(表示窓に〝CF〟シンボルが点灯します。)
(CFモード)

※ MODE 1 ～ 4 は、各々独立したモードで、組み合わせて使うことはできません。また、電源をオフにしてもモード状態は保持されています。

■表示モード

MODE 5 ……小数点以下の桁数を何桁まで求めるのかを指定します。指定桁未満の数値を四捨五入して、指定桁まで表示します。(表示窓にシンボルは点灯しません)
(FIXモード)

MODE 6 ……小数点以下の桁数指定を解除します。(表示窓にシンボルは点灯しません)
(NORMモード)

※ MODE 5 ～ 6 は、MODE 1 ～ 4 ・ MODE 7 ～ 8 と組み合わせて使用することができます。また、電源をオフにしてもモード状態は保持されています。

■日数モード

MODE 7 ……1年を365日として計算するとき指定します。(表示窓にシンボルは点灯しません。)
(365日モード)

MODE 8 ……1年を360日として計算するとき指定します。(表示窓に"360"シンボルが点灯します。)
(360日モード)

※ MODE 7 ～ 8 は、MODE 1 ～ 4 ・ MODE 5 ～ 6 と組み合わせて使用することができます。また、電源をオフにしてもモード状態は保持されています。

◆訂正について

●数字キーの押しまちがい(置数ミス)を訂正するには、2つの方法があります。

1) ► を使う場合……►を押すごとに最小桁が1桁ずつ削除されます。次に正しく置数し直せば、そのまま計算を続けられます。

例：1 2 3 5 →1 2 3 4

操　作	表　示
1 2 3 5	1235.
►	123.
4	1234.

2) C を使う場合……置数した内容をクリアーしたいとき押します。それまでの計算は計算機が覚えていますから、次に正しく置数し直せば、そのまま計算を続けられます。

※►、C ともに計算結果に対しては、働きません。

●計算命令キー(+、−、×、÷)やべき乗キー(SHIFT y^x)の押しまちがいは、すぐに続いて正しい命令キーを押します。あとから押した命令キーに訂正されます。

◆桁オーバーと計算エラーについて

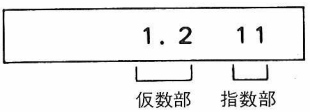
計算機が、計算範囲を越えて使用されると、表示窓の最下桁に〝E〟を表示し、以後の計算ができなくなります。これが〈エラーチェック機能〉で、次の場合にそうなります。

1. 計算途中または答(一般計算、金融計算、関数計算、統計計算とも)、もしくはメモリー内が±(9.999999×10^{99})を越えたとき。(メモリーはエラーする前の数値が保護されています。)
2. 関数計算において76ページの被演算数の範囲を越えて計算されたとき。
3. 標準偏差計算や回帰計算などで、適当でない操作が行なわれたとき。
   (例：n＝0で$\bar{x}$やσnを求めようとしたときや6÷0＝のように除数0の割り算を行なったとき。)

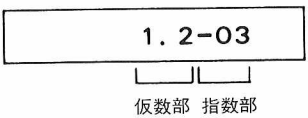
★エラーチェックは、ACで解除します。

◆表示の見方

通常は10桁で表示します。しかし、計算途中または答がある範囲を越えると自動的に指数表示となります。指数表示となる範囲は、100億(10^{10})以上および0.01(10^{-2})未満のときです。そのときの表示の見方は次の通りです。

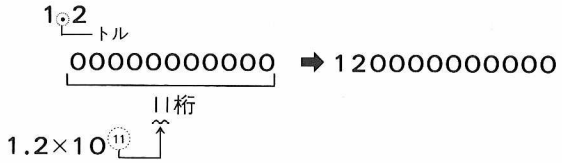


➡1.2×10^{11}➡120,000,000,000(1200億)

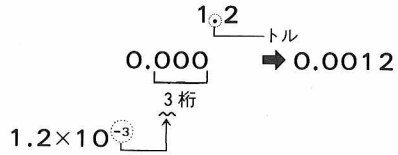


➡1.2×10^{-3}➡0.0012

指数表示を通常の表現に直すには、以下のように考えます。
指数部が正の数のときは、仮数部(有効数字)の整数部に桁がいくつ続くかを示します。そして小数点をとると全桁表示のときの数値となります。



指数部が負の数のときは、仮数部の１桁目が小数点以下の何桁目であるかを示します。そして仮数部の小数点をとると全桁表示のときの数値となります。



このようにして、指数表示になったら全桁表示に置き換えて考えてみるとわかりやすくなるでしょう。

◆内部演算と丸め処理

計算は仮数部12桁を使って計算し、答は仮数部11桁目を四捨五入して表示しますが、レジスタ内には仮数部12桁がそのまま残っています。ただし、仮数部10、11、12桁の数値が001～007の場合は切り捨て、993～999の場合は切り上げて、それぞれ000となります。